

ポジショニング

どの立場から語るか？

- どの立場にいる人間と見て欲しいか？
- ポジションのデザインができていないと言葉は空回る
- 「何者か」になる必要がある
- 誰目線か？

物語には本来「視点」がある

- 主人公の視点
- 未来から過去を語る視点
- 神の視点（ナレーション）
- 「語る」とは、視点の提供である
- 「私が見ている世界の提供」

「私」が「誰」であるか

- が、何よりも重要
- 多くの人は「実績」や「肩書き」に頼る
- 視点は誰にでもあるもの
- 実績や肩書きが全てではない
- 実績や肩書きは「接点」を作るためのもの
- 例えば
 - 17歳で1億稼いだ和佐大輔の視点
 - 人気漫画家の視点
- 誰が、何をみて、語るか
- 17歳で1億円稼いだ和佐大輔が語る〇〇

私を定義する

- 「ただの主婦」でもいい
- 「ただの主婦が選挙活動を手伝ってみた」
- 「ただの主婦が3ヶ月で10万円の貯金をした」
- 「ただの主婦だけど不倫してみた」
- 視点（誰が）、対象（見たもの、経験したこと）、結果（語り、報告）
- 視点が定義されれば「面白いコンテンツ」はいくらでも作れる
- 大げさな「私」である必要はない